

● 日语专业泛读教材

新编日语阅读文选

(第一册)

陆静华 季林根 编



外教社

上海外语教育出版社

SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS



新编日语阅读文选

新编日语阅读文选

（第一册）

张其成 李维松 编



ISBN 7-309-04000-0

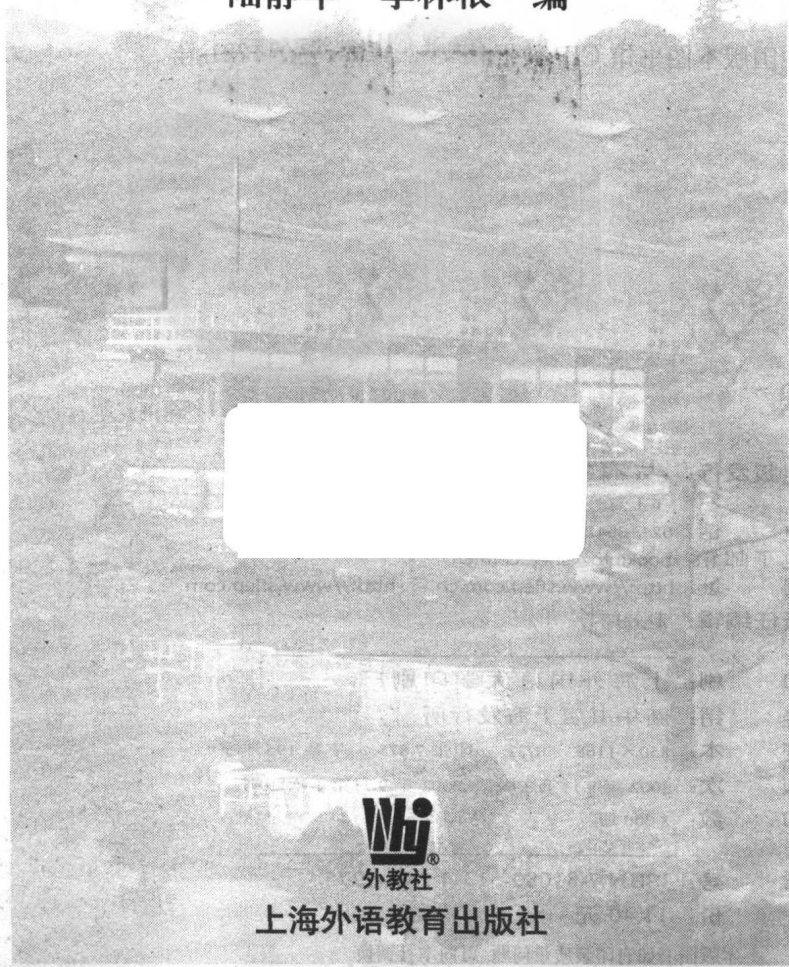
11368/K L862

日语专业泛读教材

新编日语阅读文选

(第一册)

陆静华 季林根 编



WJ
外教社

上海外语教育出版社

SHANGHAI FOREIGN LANGUAGE EDUCATION PRESS

HAI 25/16

图书在版编目(CIP)数据

新编日语阅读文选(第一册)/陆静华,季林根编.

上海: 上海外语教育出版社, 2002

ISBN 7-81080-513-4

I. 新... II. ①陆... ②季... III. 日语—阅读教学
—高等学校—教材 IV. H369.4

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2002) 第 044221 号

出版发行: 上海外语教育出版社

(上海外国语大学内) 邮编: 200083

电 话: 021-65425300 (总机), 65422031 (发行部)

电子邮箱: bookinfo@sflep.com.cn

网 址: <http://www.sflep.com.cn> <http://www.sflep.com>

责任编辑: 赵丽君

印 刷: 上海外国语大学印刷厂

经 销: 新华书店上海发行所

开 本: 850×1168 1/32 印张 7.875 字数 195 千字

版 次: 2002 年 9 月第 1 版 2002 年 9 月第 1 次印刷

印 数: 8 000 册

书 号: ISBN 7-81080-513-4 / G · 275

定 价: 11.40 元

本版图书如有印装质量问题, 可向本社调换

再版前言

《日语阅读文选》一书出版后得到了广大读者的厚爱，谨此深表谢意。同时，我们也得到不少反馈意见，主要认为本教材在文章的收录量方面比较欠缺，实际教学使用中量不够。因此我们在出版社的大力支持下，开始了修订工作。修订后本教材分为两册，经过近两年多时间的努力，第一册已经完成，即将同广大读者见面。我们衷心希望广大读者能对我们一如既往，提出宝贵意见，以便使教材更上一层楼。

本教材的编写宗旨不变，仍为大学日语专业的泛读课教材，供二年级学生使用。亦可成为广大业余日语爱好者的学习用书。目的旨在丰富学生的词汇量，拓宽学生的知识面，帮助学生熟悉日语原文，提高学生的阅读理解能力。

本教材第一册精选了说明文、记叙文、随笔、小说等 20 篇日语文章，对第一版本的课文作了一些调整。课文内容涉及日本文化、风俗、社会、经济、语言等各方面，力图通过本教材的学习能加深对日本各方面的了解。

每课仍由课文、单词、解说、思考题和“日本文化小知识”构成。每课课文都有译文附于书后，供读者参考。另外，本教材中部分单词有多种解释，由于篇幅关系，我们在释义时只列出该

单词在课文中的意思。

本教材的教学以阅读讲解为主，每课的教学课时为 2~4 课时，可视课文的长短和难易程度以及教学对象作适当调整。

本书的再版工作承蒙上海外语教育出版社的大力支持，在编写中得到上海外国语大学日本文化经济学院日本专家的热情帮助和指导，借此机会一并表示由衷的感谢。

由于我们经验不足，水平有限，时间仓促，书中难免有错误和欠妥之处，恳请广大读者批评指正。

编 者

2002 年 2 月

新編日語閱讀文選

(第一冊)

目 录

第 1 課	日光	(1)
第 2 課	柿の秋	(8)
第 3 課	友達	(16)
第 4 課	和服	(23)
第 5 課	めがね	(30)
第 6 課	富士登山	(38)
第 7 課	悪口と友情	(46)
第 8 課	野山の花	(53)
第 9 課	ひょい、ひらり	(60)
第 10 課	東京の音	(68)
総合練習 (一)		(75)
第 11 課	かげろう	(82)
第 12 課	心と言葉	(91)
第 13 課	父の白いワイシャツ	(101)
第 14 課	威厳を支えたパイプ	(113)
第 15 課	道草	(122)
第 16 課	緑と青の自然	(132)

第 17 課	おふくろの筆法	(142)
第 18 課	対人恐怖症	(152)
第 19 課	画家先生のプライバシー	(159)
第 20 課	魚を食べないフランス人	(167)
総合練習 (二)		(180)
参考訳文		(187)
単語表		(225)
文型リスト		(244)

第 1 課
新編日語閱讀文選

日 光

日光は景色がよい上に、いろいろりっぱなお宮がたくさんあるので、日本が外国にむかって自慢することのできる名所の一つになっています。そのうち、よその国に見ることのできないものは、何ととっても東照宮です。

東照宮は徳川の最初の将軍の徳川家康をまつたお宮です。これは三代しょうぐんの徳川家光が日本じゅうの名人を集め、たくさんのお金をかけてこしらえたお宮で、一本のはしら、一つの彫り物、一枚の絵、どれを見てもおどろくほどよくできています。「日光を見ないうちはけっこうと言うな。」という例えがあるくらい、日光はけっこうな所です。

東照宮に参詣した人は、だれでもかならず中禅寺へ行きます。東照宮の前を流れる大谷川にそってさか道を四キロばかり行くと、そこに名高いけごんのたきがあります。けごんのたきは高さが百メートルもあって、たくさんの水がかみなりのような音を立てながらおちて来るありさまは、なんとも言えないすばらしいながめです。

ここからまた少しさか道を上がって行くと、名高い中禅寺湖に出ます。中禅寺湖はまわりが二十五キロもある大きなみずうみで、たいへんけしきがよく、まっ白なほをはったヨットが走って行ったり、赤や白やいろいろにぬった洋館がみどりの木の

間にちらついたりするさまはまるで絵に書いたようです。

みずうみのすぐそばに男体山がそびえています。男体山はたいへんかっこうがよいので、日光ふじという名がついています。あきになると、山じゅうがすっかりもみじになります。まっかなもみじがみずうみにうつたながめはほんとうにみごとです。

日本にはけしきのよい所が少なくないが、人工の美としぜんの美とを合わせたものは、日光におよぶものではありません。それゆえ、一年じゅうあそびに来るものが多く、日本に来る外国人で、ここに来ないものはめったにありません。

「標準日本語読本巻一」による



単語

日光(にっこう)	〔名〕	日光(地名)
お宮(おみや)	〔名〕	皇宫;神社
むかう(向かう)	〔自五〕	对,向,朝着
じまん(自慢)	〔名・他サ〕	自夸,吹嘘,自满
名所(めいしょ)	〔名〕	名胜,有名的地方
徳川(とくがわ)	〔名〕	徳川(人名)
しょうぐん(将軍)	〔名〕	将军,(幕府时代)征夷 大将军,当时的主宰者
徳川家康(とくがわいえやす)	〔名〕	徳川家康(人名)
まつる(祭る)	〔他五〕	祭,祭祀,供奉
三代(さんだい)	〔名〕	三代



徳川家光(とくがわいえみつ)	【名】	徳川家光(人名)
お金をかける(おかねをかける)	【連語】	花钱,耗资,投入资金
こしらえる(拵える)	【他一】	做,造,制造;修建
はしら(柱)	【名】	柱子
ほり物(彫もの)	【名】	雕刻品
たとえ(例え、喩え、譬え)	【名】	比喻,例子
参詣する(さんけいする)	【自サ】	朝山,参拜
そう(沿う)	【自五】	沿着,顺着
さか道(坂みち)	【名】	坡道
名高い(なだかい)	【形】	闻名,著名
かみなり(雷)	【名】	雷
音を立てる(おとをたてる)	【連語】	发出声响,出声
ながめ(眺め)	【名】	风景,景致
ほをはる(帆を張る)	【連語】	扬帆
ヨット	【名】	游艇,快艇
洋館(ようかん)	【名】	西洋式的建筑物
木の間(このま)	【名】	树与树之间,树间
ちらつく	【自五】	若隐若现,闪烁
そびえる(聳える)	【自一】	耸立,屹立
かっこう(格好)	【名】	外形,形状,外表,样子
もみじ(紅葉)	【名】	红叶,枫树(树叶)
まっか(真っ赤)	【名・形動】	火红,通红,鲜红
みごと(見事)	【形動】	好看,漂亮,出色
人工(じんこう)	【名】	人工
およぶ(及ぶ)	【自五】	及于,波及;达到
それゆえ(其れ故)	【接】	(比「それだから」稍郑重的说法)因而,因此,所以



1. ～うえに

「うえに」在本句型中表示的意思与「さらにまた」的意思相同，接在「名词＋の」或者用言连体形的后面，表示添加，因此谓语部分要出现添加某种情况的成分。该句型的意思为“不仅……而且……”、“既……又……”等。

- わたしは道に迷ったうえに、雨にも降られて、本当にひどい目にあった。

我不仅迷了路，而且还挨了雨淋，真倒了大霉。

- あの店は値段が安いうえに、味もよくてみんなから喜ばれている。

那家店价格便宜味道也好，所以受到大家的欢迎。

2. ～になっている

「なっている」由自动词「なる」变化而来，「に」是格助词，接在体言后面表示现在的状态，相当于「である」。

- 本当の知識はすべて直接の経験がその源になっている。
一切真知都来源于直接经验。

- この建物は一階がデパート、二階以上が住宅になっている。
这幢楼房底层是百货商店，二楼以上是住宅。

3. ～ほど

「ほど」是副助词，接在体言或用言连体形后面表示程度。本句型表示“达到……程度”。

- 小さくて、肉眼では見えないほどだ。
小得用肉眼看不见。

- あそこは暖房をつけないと生活できないほど寒い所である。

那地方很冷，不用暖气设备，几乎无法生活。

4. ～くらい

「くらい」是副助词，可以接在体言、副词、助词以及用言连体形后面，表示程度。有时也用「ぐらい」。本句型表示“几乎连……也……”。

- ミカンを数えきれないくらいたくさんもらった。

给了我很多桔子，几乎数不清。

- 彼は聞こえないぐらいの小さな声でつぶやいた。

他小声地嘀咕着，几乎连声音也听不到。

5. まるで～ようだ

「ようだ」是比况助动词，与副词「まるで」呼应使用时表示比喻。

- 周りは景色がすばらしくて、まるで絵に書いたようだ。

周围的景色犹如画一般的美丽。

- 田中先生はみんなの前で歌ったり、さわいだりしてまるで子供のようだ。

田中先生在众人面前又是唱又是闹简直像个小孩子。



思考問題

1. 日光にはどんな名所があるか。
2. 東照宮とはどんなところなのか。
3. 東照宮に参詣した人はなぜ誰でも必ず中禅寺へ行くのか。
4. けごんの滝はなぜ「なんとも言えないすばらしいながめ」と言うのか。

5. 男体山はなぜ日光の富士と言われているのか。
6. 日光の景色の特徴はなにか。
7. 外国人観光者がたいてい日光に来るのはなぜか。

日本文化の豆知識

出 前

すし、そば、ラーメンなどを注文に応じて客の家に配達するサービス。昔は、岡持ちという木製の箱にどんぶりや皿などを入れて配達していたが、現在は振動防止のスプリングのついた特殊な入れ物を使ってオートバイで持ち運ぶのが普通になっている。配達料やチップなどは不要で、庶民に重宝がられている。

単 語

出前(でまえ)	【名】	送菜, 送外卖
岡持ち(おかもち)	【名】	(送饭菜用的) 食盒, 提盒
木製(もくせい)	【名】	木制
振動(しんどう)	【名・他・自サ】	振动, 晃动, 摆动
防止(ぼうし)	【名・他サ】	防止

スプリング 〔名〕

弹簧

オートバイ 〔名〕

摩托车

重宝(ちょうほう) 〔名・他サ・形動〕

便利, 方便, 珍惜, 至宝

柿の秋

外山滋比古

音羽の護国寺の前から目白のほうへ広い通りが延びている。昔、この近くに下宿していたころ、ここには都電が通るはずだったのに、何かの都合で実現しないのだという話を聞いた覚えがある。広々として気持ちのよい道だ。それに天気も申し分がない。歩いているうちに、口笛でも吹きたいような気分誘いこまれる。

少し行くと、左手が日本女子大学で、塀の内側にある物置の屋根に女子学生らしい人が竹竿を持って登っている。何をしているのだろうと思って上を見て、思わず息をのんだ。

打ち上げ花火が空いっぱいには傘を開いたときのように、枝もたわわに柿になっている。葉はすっかり落ちて、裸の枝についた赤い珠が、やわらかい秋の日ざしをいっぱいに浴びている。竿で柿をたたくと、落ちた柿が屋根を伝って塀の外の歩道へ転げ落ちるようになっている。歩道にもう一人女子学生がいて、手にいっぱい柿を持っていた。

そこへ通りすがりの二人連れの男の学生がやってきて、そのうちの一人が屋根の上の女子学生に向かって、冗談半分に、僕

にもくれませんかと言った。どうするかなと見てみると、彼女は、「ええ、いいわ。」と答えて柿をたたいた。歩道に落ちて転げた柿を二つか三つ、下にいた女子学生が拾うと、その男子学生へ差し出した。

男は、「ほんとにいただいても、いいんですか。」と、むしろ少しあわてている。女子学生は落ち着いて、「ええ、どうぞ。」と言ったらしかった。もう一人の仲間の男が、「あれっ、うまくやってるな。そんなら僕にもくださいよ。」と言っている。結局、二人とも柿をもらって、大きな声でありがとうを言うと、そこを立ち去った。二人の後ろ姿が明るく笑っているようであった。

ほんの一、二分のやりとりであったであろうが、いかに屈託のない若い人たちの闊達さがさわやかであった。こちらもいつの間にか口もとが少し緩んでいた。

夕方帰って、つかれたからソファーに横になって、ぼんやり天井を眺めていると、昼見た柿の花火がまた傘を開いた。食後散歩していると、よく晴れた空の星の光が少し赤みを帯びていると思ったら、再び女子大の柿の木が現れた。歩くにつれて、その柿の木も少しずつ後ずさりする。

次の週もまた同じ所を通った。竿が届かなかったのか、柿はまだたくさん残ったままであった。今日もよい天気だが、さすがに少し紅の色が濃くにぶくなったようである。今日は屋根の上にだれもいない。もちろん、柿をくれという男子学生もない。なんだか少しがっかりして、足早にそこを通り過ぎた。

「裏窓の風景」による